

# 秋水通信

第36号

2023. 12. 20

幸徳秋水を顕彰する会  
〒787-0010 四万十市古津賀 4-41  
四万十市生涯学習課内

ホームページ  
<http://www.shuusui.com/>  
090-6827-9129 (田中全)  
✉: zen-tanaka@heart.ocn.ne.jp

## 民主主義、立憲主義の再生を 自由民権一五〇年を迎える

二〇二四年は明治七（一八七四）年一月一七日、板垣退助らが「民撰議院設立の建白」を左院に提出してから一五〇年になります。

国会開設、言論の自由、租税の軽減、地方自治の確立、不平等条約改正を基本綱領とする自由民権運動は、これをきつかけに明治二五（一八九二）年の選挙大干渉の時期まで、およそ一八年間にわたって日本最初の壮大な国民運動として展開されました。

明治政府の圧制と弾圧に抗して、人民の参政権と公議世論政治、自由と平等の実現をめざして果敢な闘いをくり広げ、明治二三（一八九〇）年の国会開設への巨大な原動力となり、日本の民主主義や立憲主義の出発点となりました。

自由は土佐の山間より。明治四（一八七二）年、土佐の中村に生まれた幸徳秋水は「自由民権の申し子」でした。秋水は平民新聞の論説「予は如何にして社会主義者となりし乎」の中で、「境遇と読書の二なり、境遇は土佐に生まれて幼より自由平等説に心酔せし事・・・」と書いています。

早熟で神童と言われた秋水は一六歳、板垣退助が中村に来た時歓迎の挨拶をしました。一七歳で家を飛び出し上京、宿

毛出身の民権家林有造の門をたたきました。その後大阪に出て、中江兆民の書生となり、生涯の弟子になります。

自由民権運動を受け、土佐主導でわが国最初の全国的政党・自由党が結成されます。自由党はその後分裂、立憲政友会等に再編、吸収されていき、秋水は「自由党を祭る文」を書きます。そして、自由・平等・博愛から非戦・平和へ、社会主義、無政府主義へと思想を深化させていきます。

戦後の日本の政治体制は、一時的な政権交代はありましたが、基本的に保守政党の一強体制が続いています。自由民主党の源流も自由民権運動で生まれた自由党です。昭和になつてから、土佐出身の首相には濱口雄幸（木戸明は秋水と共通の師）と吉田茂（父は宿毛の民権家・竹内綱）があり、二人は保守本流の政治を形成してきました。戦後、保守本流は憲法九条を擁護してきました。

ところがいま、強権政治と政治腐敗、さらに異常な物価高により生活難の一方で軍事費だけが増大、平和への不安も高まっています。国・地方を問わず、選挙の投票率が五〇％を大きく割り込み、立憲主義の土台だけではなく、政治そのものが壊され機能不全に陥っています。

幸徳秋水を顕彰する会は自由民権一五〇年にあたる二〇二四年の一年間、自由民権友の会のほか、今の政治状況に危機感をもつ高知県内の団体、個人のみならずともにも実行委員会をつくり、「自由民権一五〇年記念事業」に取り組みます。そして民主主義、立憲主義の再生に向けたよびかけを全国に発信していきたくと考えています。

その第一弾として、一月二二日（日）午後一時三十分から、高知市立自由民権記念館民権ホールで、「いまの政治に土佐から吠える」を統一テーマにして、記念講演（公文豪「自由民権の現代的意義」民撰議院設立の建白から一五〇年―）とネット番組、デモクラシータイムズ「3ジジ放談」（平野貞夫、佐高信、前川喜平）の公開収録を行います。

平野貞夫さんは保守本流を自任する土佐清水市出身の元参議院議員（自民党、自由党）で、秋水顕彰会の会員です。二〇一九年には小沢一郎氏と一緒に秋水の墓参をしてくれました。遠山茂樹先生門下の明治維新研究者でもあります。いま野党と保守本流の連携を呼び掛けています。当日参加できない方は、後日Tubeでくらんどださい。（田中全）

### 幸徳秋水刑死一一三年記念墓前祭

日時 二〇二四年一月二四日（水）  
午後〇時半  
場所 正福寺 秋水墓地

### 記念講演会

日時 同日 午後二時  
場所 中村商工会議所  
3Fホール（小姓町）  
講師 公文豪  
演題 幸徳秋水と中村の自由民権運動

### 秋水墓地の看板 建て替え

設置後約二十年たち老朽化してきたので十月十二日立て替えました。サイズを大きく、カラー写真も入れ、墓参者に見やすく、資料室、絶筆碑、非戦の碑、生家跡等へも回っていただくよう案内しています。高知新聞記事にもなりました。

#### 幸徳秋水墓参 ありがとうございます。

こちらへどうぞ

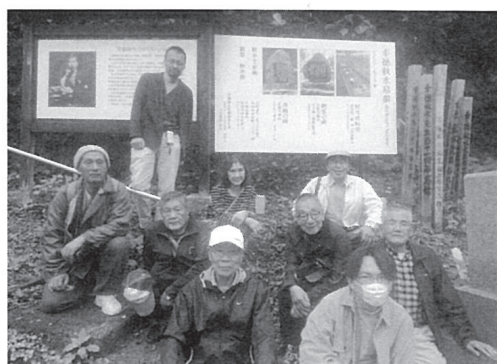
秋水資料室  
市立第二階 市立図書館内  
090-6827-9129

絶筆の碑  
為松公園内  
市立福土博物館そば  
090-333-4096

非戦の碑  
正福寺境内  
こちらから前方二メートル

秋水生家跡  
銘菓 秋水餅

京町通り 案内右柱あり  
市内中村京町二丁目四  
右城広風堂  
市内小姓町五  
090-333-4111  
幸徳秋水を顕彰する会  
090-6827-9129 田中全  
入会費は無料です。



# 大杉・野枝・宗一虐殺の国家犯罪を再検証

## 没後一〇〇年に改めて真実を問う集会

初期社会主義研究会 大和田 茂

今年は関東大震災から一〇〇年、そして戒厳令下の九月一六日、東京憲兵隊本部で大杉栄、伊藤野枝、橋宗一少年の三人が甘粕正彦憲兵大尉らによって殺害されて一〇〇年を迎えた。世に「甘粕事件」というが、この事件は本当に甘粕本人の一存で行われた犯罪だったのか。古くから疑義も出されながら、この一〇〇年ずっと「甘粕事件」と称して来たが、もうその呼称はやめようではないか、明らかな国家犯罪としてその真相にしっかりと向き合おうではないか、という思いのもと、初期社会主義研究会と『大杉栄資料集成』（ばる出版近刊）編集委員会の共催で、一

〇月七日、明治大学リハビリタタワー一四教室において、集会（シンポジウム）が開かれた。参加者は予想を上回る九〇名が来場した（オンライン配信なし）。発表者は、手塚登土雄、山泉進、大和田茂の三人で、いずれも『大杉栄全集』と『大杉栄資料集成』の編集委員である。竹内栄美子明大教授の開会挨拶のあと、まず、手塚氏は「大杉栄・伊藤野枝・橋宗一殺害の謎」と題し、この虐殺をだれが命令し、どのように大杉らを連行、殺害したか、それらの謎をこれまでの記録や証言などによって明らかにしようとした。すなわち軍法会議における甘粕の陳述がそのまま今日まで影響力を持っている現状に対し、安成二郎、角田房子、佐野眞一、鎌田慧、古川薫らの著書や「警視庁資料」、「死因鑑定書」、各新聞記事などの文献を引いて、獄中からの書簡で甘粕が「承知の上で……十年の苦役を甘受せざるべからざりし」胸中を吐露し、加えて上官の処分に詫言の心情がない点など陳述は虚偽といえ、国家犯罪の真実に迫りたいと述べた。

つづく山泉氏は、「甘粕裁判」の謎」と題し、八月二五日加藤友三郎首相の急死と大地震という政治的混乱の中で、九月二日第二次山本権兵衛内閣が組閣され、戒厳令が発令されたが、いったい誰が組閣を指示し戒厳令を決定したのか。国家犯罪を「国家によって正当化された複合的・構造的犯罪」と仮定するならば、それは対外的には軍事侵略から占領、統治、国内的には大逆事件、横浜事件のように「治安維持」という名目で行われてきたと説明。いま、朝鮮人・中国人の大量虐殺事件と大杉ら虐殺事件・亀戸事件とを民族問題の視点から見ることではなく、ひとしく国家犯罪として真実追及と糾弾を続行すべきであり、「甘粕事件」は実は朝鮮人・中国人の大虐殺を隠蔽すべく、世間の耳目を引くために仕組まれたとも言えないか、と述べた。

最後の大和田は「亀戸事件の謎」と題し、大杉ら虐殺事件と関連づけて、謎は「なぜ大杉たちは九月一六日で、亀戸の犠牲者たちは三日なのか」の一点あり、大杉

や野枝の家庭が一五日まで何事もなく「子供を中心として楽しんでいた平和の家庭」（松下芳男）だったのに、早くも二日午後に軍隊が投入された亀戸・大島地区で労働運動家一〇名がすぐに殺害されたのは、彼らが自警団から多く住む朝鮮人、中国人を守ろうとしたこと、それが「主義者」が「鮮人」と連携していること、民衆から歪められて警察・軍へ伝わったためだとする仮説を出した。その後、社会主義者たち約六〇名ほどの「保護検束」が始まる。それでも大杉は無事だったが、亀戸事件と大杉ら殺害の間の一二日間に権力・民衆によって殺害された「主義者」はいない。亀戸事件も陸軍による虐殺であり国家犯罪であるが、権力に踊らされた自警団の告発に端を発している点で、大杉らの事件とはやや異質だと述べた。

会場からの質問によって、大杉ら虐殺の真の命令者はだれか、朝鮮人大虐殺と大杉ら事件・亀戸事件は同列に語れるのか、中国人虐殺を政府は重く見たのではないかと、摂政一行視察と大杉ら事件との関係性をより知りたい、「夜警」＝自警団でいいのか、など多岐に及ぶ議論となった。

# 神戸サミット記録集

五月二七、二八日開かれた第五回大逆事件サミット神戸大会の記録集ができています。主催団体の「大逆事件を明らかにする兵庫の会」が作成。

内容は二人の記念講演（山泉進、上山慧）の全文、全国から参加十団体の活動報告、神戸宣言、一日目のフィールドワーク（神戸多門教会、いのちと平和の碑、夢野橋、小松丑治夫婦の鶏舎跡）など、大会のすべての記録が収録をされています。全二四ページ。

## 申し込み先

大逆事件を明らかにする兵庫の会  
津野公男  
〒657-0823  
神戸市灘区天城通3-5-19  
電話・FAX 078-861-6566  
メール kmiioama@yahoo.co.jp

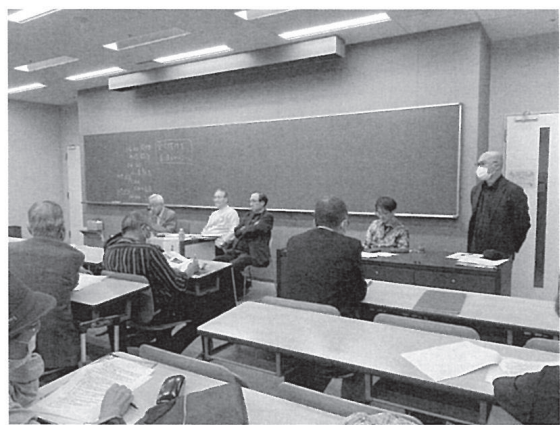
到着後500円切手（送料込み）を送ってください

次回、第六回サミットは二〇二五年秋、森近運平のふるさと岡山県井原市で開催する予定です。



案内チラシ

最後の大和田は「亀戸事件の謎」と題し、大杉ら虐殺事件と関連づけて、謎は「なぜ大杉たちは九月一六日で、亀戸の犠牲者たちは三日なのか」の一点あり、大杉



集会のもよう



記録集

# 伊藤野枝100年フェスティバル 参加レポート

高知市 森本 琢磨

去る九月十五日と十六日、筆者は福岡市で開催された「伊藤野枝100年フェスティバル」に参加した。伊藤野枝とは、大正時代に女性の地位向上を訴えた活動家として知られる。そして、一九二三年の関東大震災時、憲兵によって大杉とともに虐殺された「甘粕事件」の被害者でもある。二〇一三年は、野枝の没後百年に当たることから、命日の九月十六日に合わせ、彼女の故郷である福岡市の今宿でこのイベントが開かれた。

筆者が最初に参加した同フェスティバルのプログラムは、矢野寛治氏の講演であった。矢野氏は、野枝の研究家として知られ、本講演では「日蔭茶屋事件から虐殺まで」と題して、野枝の人生や人脈について解説された。

日蔭茶屋事件とは、妻帯者の大杉と、彼の愛人関係にあった野枝、そして大杉のもう一人の交際相手であった神近市子との「四角関係」の末に起こった傷害事件である。事件は、やがて大杉と野枝への非難を生み、後に二人が虐殺された際も彼らを見る世間の目は冷たかったという。たしかに、大杉と野枝の恋愛観は決して誉められたものではない。しかし、二人のこの行動にも「恋愛は自由であるべき」との思想が反映されていた。無政府主義者の大杉は当時の「女は貞操を守れ」という価値観に反発しており、野枝もま

た同様だった。明治以降、日本の権力は女性に「貞操」や「良妻賢母」を要求し、それは、天皇政権にとって都合のよい価値観で国民を支配することでもあった。そうした風潮に異議を唱え、権力や法律を否定する無政府主義者の存在は、いつしか天皇政権にとって目障りになっていったのである。

そして、大震災の戒厳令下で、権力は「大杉と野枝に牙をむいた」。矢野氏は、講演の最後に「世論の怖さ」「全体主義の恐ろしさ」について強調された。当時、この事件を受けての世間の反応は、前述の通り、大杉と野枝への非難が多かったという。こうした「権力に支配された世論」が行き着く先が、日中戦争であり、アジア太平洋戦争であったことは言うまでもない。

矢野氏の講演の後は、シンポジウムが行われた。大学生の女性たちが野枝への思いを語るというもので、肯定一辺倒ではない色々な意見が聞けた。若い学生たちが野枝に興味を持ち、その思想やバックグラウンドについて語る姿には、頼もしいものを感じた。

一日目最後のプログラムは、クイズとコントで野枝を学ぶパフォーマンスであった。こうしたエンターテインメント要素で情報発信を図るのも、理解を促進できて良いかもしれない。

二日目の日程は、映画「ルイズ その旅立ち」の上映から始まった。一九九七年に公開されたドキュメンタリーで、野枝と大杉の四女として生まれ、両親の情熱を受け継いだ市民運動家・伊藤ルイズの生涯を追う内容である。

野枝と大杉が殺された時、ルイズはわずか一歳だった。ゆえに、ルイズは両親の像を知らない。両親亡き後は祖父母が親代わりとなってくれたが、野枝と大杉に対する世間の目は戦後になっても冷たく、ルイズはそうした環境の中で育った。

映画の中では、野枝らが殺された時の鑑定書が公開された。そこには軍医による生々しい遺体の絵も描かれており、これに衝撃を受けたルイズは、以後、人権保護の市民運動に関わっていったという。

また、甘粕事件のもう一人の犠牲者である大杉の甥・橘宗一（むねかず）少年の墓についても取り上げられていた。この墓は、名古屋にあり、「大杉栄野枝ト共ニ犬共ニ虐殺サル」と刻まれている。事件から四年経った後に父親が建立したもので、我が子を殺された無念を表現している。

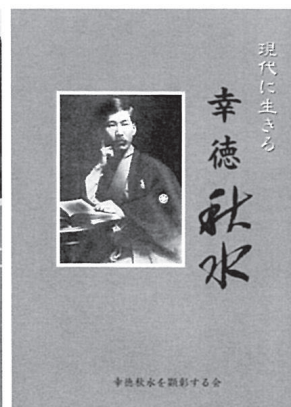
宗一少年の墓は、長らく人々の記憶の中から忘れ去られ、戦後に発見された。だが、この「忘れ去られていた」ことが重要である。戦前の暗黒政治の中で「犬共ニ虐殺サル」などという碑文が見つかれば、たちまち破壊されることは目に見えていた。だからこそ、関係者はこの墓の存在をひた隠してきたのである。

映画が終わった後は、福岡出身の講師・神田紅氏による創作講演「伊藤野枝物語」、作家・森まゆみ氏による「青鞥」時代の野枝に関する講演、最後に座談会が実施された。座談会では、神田氏をはじめ四人が登壇し、「伊藤野枝を未来に語り継ぐために」というテーマで語り合った。残念ながら、帰りの交通便ゆえ、筆者は座談会の途中で退席を余儀なくされた。だが、二日間の日程で得たものは大きく、伊藤野枝という人物がこれほどにまで全国区の注目を集めているということも知れた。女性の権利向上を訴え、暴走した権力に殺された野枝の存在は、「第二の戦前」をおおわせる現代社会を映す鏡といえよう。

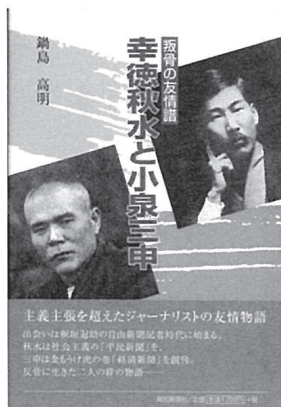
今回のフェスティバルを知ったきっかけは、本会から送られてきた会報にこの広告が同封されていたことである。5月に神戸で開催された「第5回大逆事件サミット」にみえていたフェスティバル事務局の日高明子さん（秋水顕彰会会員）が同封を依頼してくださったというご縁であった。本会と日高さんに心よりの感謝を申し上げます。

## 書籍 CD ご案内

秋水顕彰会で幹旋、販売中。題字「秋水通信」下の連絡先までメール、お電話をください。送料180円を別途いただきます。



秋水顕彰会  
「現代に生きる幸徳秋水」  
(読本) 600円



鍋島高明  
「幸徳秋水と小泉三申」  
1000円



CD 笠木透と雑花塾  
「ポスター—大逆事件 100年—」  
1000円



CD 宮本多仁男  
「演歌幸徳秋水」  
1000円

# 堺利彦没後九〇年／平民法二二〇年記念事業について

堺利彦・葉山嘉樹・鶴田知也の三人の偉業を顕彰する会 木村敏彦

## 記念講演会

二〇二三年一月二二日、堺利彦没後九〇年／平民法二二〇年記念講演会を福岡県京都みやこ町の歴史民俗博物館で開催した。開会行事では、今年度より顕彰会の新会長に就任した内田直志みやこ町長の主催者挨拶に続き、遠路ご参加の幸徳秋水を顕彰する会田中全事務局長より来賓挨拶をいただいた。

田中氏は堺利彦の書幅「幸徳秋水獄中懷母」(写真)などを披露しながら、「中村では戦後いち早く幸徳富治が立ち上がり、秋水の名誉回復に取り組んだ。その背景には、若い富治を支え、励まし続けた利彦の面倒見のよさと包容力があつた。利彦を生んだ豊津(みやこ)と秋水を生んだ中村(四万十)は、永遠の友として今後も友好交流を深めていこう。」とエールを送った。



週刊「平民新聞」編集局。堺利彦(右奥)と秋水(左奥)、1904年、堺利彦記念館旧蔵資料。

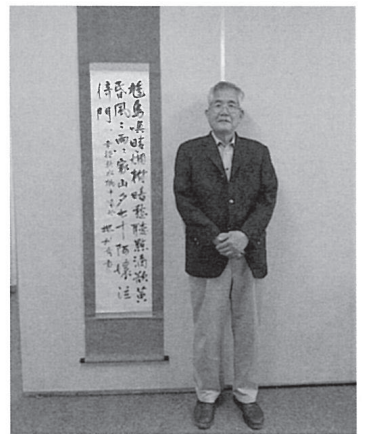
最初に「堺利彦記念館建設の頃」を講演した顕彰会副会長の塚本領氏は、総評・全国金属時代から半世紀にわたり、堺利彦顕彰運動を推進してきた。塚本氏は堺利彦記念館の開館(一九七三年)を報じた新聞記事をもとに、堺の足跡を総覧できる記念館にするという当時の意気込みと一年間に約二〇〇〇人の来館者があつたことを熱く語った。同記念館は二〇〇二年に閉館となり、所蔵資料をみやこ町歴史民俗博物館に寄託している。

次に、山泉進明治大学名誉教授の「堺利彦と現代」は、(1)堺利彦の略歴(幸徳秋水との比較)、(2)堺利彦の社会主義(「家庭雑誌」創刊号掲載の「我輩の根本思想」)、(3)平民社の非戦論(週刊「平民新聞」創刊号)、(4)堺利彦と現代、を骨子とする非常に示唆に富む講演であつた。

なかでも「家庭から社会主義を考えたのは堺利彦しかない。生温い社会改良論ではなく、家長主義的な国家体制に対するラディカルな批判である。平民社の非戦論は、『多数人類の完全なる自由、平等、博愛』を一体的に追求する、現代風に言うところの積極的平和主義の提唱であつた。」という指摘は、参加者に大きな感銘を与えた。

山泉氏の講演の書き起しは、二〇二四年四月刊行の「顕彰会通信」第二六号に掲載する予定である。山泉氏より堺利彦の祖母、父、叔父や西村天囚の書簡など極めて貴重な資料を寄贈いただいたこと、も特記しておきたい。

今回の講演会を始めとする一連の記念事業「みやこ町ふるさと遺産フェスタ・堺利彦と葉山嘉樹―色褪せぬ反戦とハンテンの志」を企画した歴史民俗博物館の



田中全氏が披露した堺利彦の書幅「幸徳秋水獄中懷母」

山見紀幸館長(顕彰会副会長)と木村達美学芸員(同事務局次長)に深甚なる感謝を申し上げる。

## 記念出版

顕彰会事務局長で(公社)福岡県人権研究所副理事長の小正路淑泰氏が、「田原春次と堺利彦農民労働学校―社会民主主義派の水平運動と農民運動」を福岡市の花乱社から記念出版した。奥付刊行日の一月一日は、週刊「平民新聞」の創刊日である。

平民社の思想的系譜である堺利彦農民労働学校(一九三二年開設)の参画者が、三〇年代に展開した無産運動の諸相、戦後の堺利彦顕彰会(一九五六年結成)への継承を堺利彦記念館旧蔵資料などを駆使して鮮やかに描き出した。

「平民社二二〇年―堺利彦と現代」、「第三期堺利彦農民労働学校移動講座―満州事変期の全農総本部派」、「独立系水平社・自治正義団と堺利彦農民労働学校―対抗的公共圏の形成」、「高松結婚差別裁判糾弾闘争前後の田原春次と松本治一郎―松本治一郎旧蔵資料(仮)の検討を通して」など一五本の論考を収録。

「まえがき」には、「戦前期と同様に戦後も諸党派に分立していた堺利彦農民労働学校関係者は、五五年体制成立期、党派的な対立を乗り越えて堺利彦顕彰会に再結集した。堺利彦農民労働学校に参

画して自己を形成した人々にとつて、同校は心の拠り所だつた。」と記されている。

本書は定価二七五〇円のところ、特別価格二五〇〇円(送料込)で頒布すること。購入申込は小正路氏まで(福岡県行橋市津留825の1、ファックス0930・23・8488、メールアドレス201490toshi@gmail.com)。

次に、三人顕彰会の作家坂本梧朗氏(北九州文学協会「ひびき」元編集長、日本民主主義文学会)が、一〇〇〇枚を超える長編「見果てぬ夢―小説 堺利彦伝」を脱稿し、九月刊行の季刊文芸誌「コールサック」第一一五号から長期連載を開始した。自伝文学として定評のある「堺利彦伝」の行間を見事に埋め、今にも利彦少年が郷里の豊津界限から顔を出しそうな臨場感と躍動感に溢れている。

最後に、和田博文・山辺春彦編「近代日本思想史―「知」の巨人100人の200冊」(平凡社新書)では、竹内栄美子明治大学文学部教授が、堺利彦、幸徳秋水、石川三四郎、大杉栄、荒畑寒村の各項を執筆。堺の代表的著作として「堺利彦伝」(中公文庫)と「新家庭論」(講談社学術文庫)、幸徳の著作は「帝国主義」(岩波文庫)と「平民主義」(中公クラシックス)を取り上げた。本紙読者にも一読をお勧めしたい。

## 幸徳秋水研究会

毎月第二日曜日 午後一時半  
四十市立文化センター  
予定テーマ

- 一月 堺利彦と豊津
- 二月 絞首台の二人
- 三月 トルストイの戦争論と平民法